

Chocolats à la Nuit

夜の
チョコレート

M O R I Y O K O

森瑤子

角 川 文 庫

平成四年十一月十日 初版発行
平成六年十月二十日 十五版発行

発行者——角川歴彦

発行所——株式会社角川書店

東京都千代田区富士見二―十三―三

編集部(〇三)三八一七―八四五―

電話 営業部(〇三)三八一七―八五二―

二一〇二 振替東京③一九五二〇八

印刷所——暁印刷 製本所——多摩文庫

装幀者——杉浦康平

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。

落丁・乱丁本はご面倒でも小社角川ブック・サービス宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。

定価はカバーに明記してあります。

©Printed in Japan

夜のチョコレート

森 瑤子

目 次

大人の女になるための言葉美人のススメ	7
髪というものについて	14
煙草の喫い方	19
エスコートなしのフォーマルドレスなんて	25
痩せぎすブス	30
長電話の女	35
脚を組む女	40
ブランド娘	46
しゃがむ女	52
男好みの女	59
若い美食家なんて気味悪い	64
エダゲリアンと便秘症候群団	70
オペラとジーンズ娘	76
寄生虫女	82

たまにはタブーを無視しよう	87
ひねもすノタリノタリかな	93
ハイ、ピース	99
ふにゃふにゃ握手	106
女を差別するのは女だ	113
鮮度が売り物	120
男を口説いてみない?	126
WHAT ARE YOU?	131
長電話	136
自然について、また少し、考えましょう	141
言葉ブスは顔もブス	147
ドキドキしてみない?	153
手紙	158
結婚	165

大人の女になるための言葉美人のススメ

カフェバーの一角が騒々しいのでふと見ると、外国の若い男たちにアプローチを受けたジャパニーズ・ギャルたちが浮かれ騒いでいる。

金髪碧眼^{へまがん}が何か言う。とたんに女の子たちが「ヤダァー」と大口をあけて嬌声^{きようせい}を発し、慌て^{あわ}ててマニキュアのついた手で口元を覆う。それを見て金髪達が直ちに真似^{まね}をして、「ヤダァー」と口元を覆って身をくねくねさせる。

それをまた我が同胞のギャルたちが「ヤダ、ヤダ」と笑い転げる。「ヤダ、ヤダ、ヤダ」と外国男どもが身もだえしてまたまた真似る。

ヤダァーだけで十五分も二十分も大騒ぎして、笑いを共有することによってお互いに親

しみが急激につのる。

だけどそんなの変だと思わない？

「ヤダァ」なんて、大学卒や社会人のOLが連発すること自体、信じられない。最近のアメリカ映画にやたら下品な四文字^{フォーレターワーズ}を喚^{わめ}きたてるのが多くてうんざりするが、同じFUCKの一言でも時と場合によっては、バカであったりマヌケであったり、おまえの母ちゃん出べそであったりするわけだ。

日本娘のヤダァもそれと同じで、あたし嫌よとか、あんだバカねとか、あんだイカスじやないと、微妙なるニュアンスの使い分けがあるのかもしれないが、FUCKと同様、どこか卑猥^{ひわい}な感じがしないでもない。

いずれにしろやたら四文字^{フォーレターワーズ}なるものを連発する人種は、アメリカでもろくに小学校も出ていない人間か、本性の野卑^{やひ}な人間に限られる。似たような発想のヤダァを大学卒の女の子が使いまくるといふのは、だからどうなのだろう？

それを相手が真似して嘲^{あざわら}っているのを見てコロコロと笑うという神経が変なのだ。

さて意気投合したところで、また別の金髪の一人が何か言うとする。

「ウツソォ」

と、とたんに日本娘らは大仰^{おおぎやう}にのけぞってみせる。それを見て外人勢がまたいつせいに

ウッソ、オを真似する。ヤダ、ヤダ、ヤダが始まる。小一時間ばかり、ウッソ、オとヤダ、ヤダで時間が潰れる。

娘共はウォッカ・トニックやマルガリータやダイキリをおごってもらってすっかりご機嫌だ。

そのうち、ディスコでも行こうと金髪が言い出す。

「ディスコだってよ、どうする、どうする？」

日本娘は急に顔を寄せてヒソヒソやり出す。

「ディスコだけで済めばいいけどさあ、あとがめんどうだよ」

「誘われても、怖いしね、エイズ」

「でも、ディスコじゃうつらないよ」

「適当に踊って、パッと逃げ出さない？」

「そうしようか」

相談がまとまり、一人がオーケイを出す。

一方、日本娘がヒソヒソとやっている間に、外人勢もこんな会話を交わしていたとは、おしゃかさまでもご存知あるまい。

「こんなノータリン誘ってどうするんだい？」

「適当なところで、放り出そうよ。九官鳥じゃあるまいし、バカのひとつ覚えみたいになやダアなんていうギャルじゃ、ベッドの中でも面白くもおかしくもないよ」

「九官鳥だって、もっとボキャブラリーあるぜ」

「どうせディスコ踊るだけにしても、もう少し上等な女の子はいないのかね」

「まず、いないね」

と比較的日滞の長い金髪君がユーウツそうに首を振る。「とにかく二人連れ以上でワイワイ遊んでいる日本人の女には、絶対に上等の女なんていないさ」

しかし、彼女たちは大学でフランス文学とか英米文学とか、美学とか法律などを専攻しているのである。

もしも、それがアメリカ人の娘だったらどうだろう？ イギリス人でもアラブ人でも中国人でもタイの娘でも？ 一体他の国のどんな娘たちが大学まで出ていて、ヤダァーとウツァなんてことに終始するであろうか。これはゆゆしきことである。

これは言葉の壁の問題などではないと思うのだ。たとえ英語が苦手でも、我々は中学、高校、大学と、最低三年間、長くて十年間は英語を勉強してきているのだ。要は、自分を表現しようという意欲に欠けているのだ。いやそれ以前に、表現すべき自分というものがない、というのが最大の問題である。

何も相手が外国人に限った話ではない。同じ日本人同士でも、さほどの差はない。やっぱりヤダァとウツソォが連発されるし、会話と言ったって、せいぜい、

「あなた何座？」

と星座の話か、血液型の話くらいのものである。

自分を表現する能力に欠けない女もたまにはいるが、

「あたしって、朝早いのに弱いひとなのォ」

とか、「あたしってイタリア料理は好きだけど、フランス料理のソースがだめなひとなの」程度のお粗末さ。あたしって、何々がだめなひとなのォという手の女と結婚したら、男は一生浮かばれないだろうと、言を大にして予告しておきます。

大人の女になるには、まずボキャブラリーを増やすことである。ヤダァとウツソォには今日限り見切りをつけて、一切使わないこと。

次に、あたしがどうのこうのという話をするのではなく、あなたについて色々話をするように意識したら良い。

「先日『危険な情事』を観たけど、あなたご覧になった？ どう思った？ あれは完全に病的な女だから一般論にはならないような気がするけど。男の立ち場から見ると、どうなのかしら？」

自分の意見もちゃんと要所要所に述べるけど、相手の考えもぜひ聞きたいのだという熱意が伝わるような会話が素敵なのだ。

つまり基本は、人間は誰だって、人から良く思われたい、尊敬されたい、好かれたいと切望しているものだということを頭におくこと。あなただってそうでしょう？ 人から良く思われたいし好かれたいでしょう？

だったら、自分がされたらうれしいことを人にもしてあげる。自分が言われたら、ドキドキするようなことを人にも言っておけることだと思う。

ヤダアなんて言ってお駄をくねくねしたって、誰もドキドキしないし、あなたを好きにもならない。九官鳥だってもう少しポキャブラリーがあるさ、なんて思われるのがオチだもの。九官鳥にも劣る女の子だなんて情けないと思わない？

外国人に通用することも大事だけど、まず周囲の同胞の男たちにも立派に通用するレディになることが先決。ヤダア程度の娘には、FUCK男しか寄りつかないということをお忘れなく。

ついでだけど、こういう喋り方も絶対しない方が素敵だと思う。

「わたしい、今度オ、東南アジアにイ旅行するのオ」とか、

「とは思うんですけどお、なかなか上手いなくてえ、困ってるんですけどお……」

語尾を引っぱる言い方、くせになってしまっている若い人がものすごく多いけど、決してきれいでもないし、素敵でもない。ただずるずるしてだらしない感じ。いくらおしゃれしても下着が汚れているっていう感じ。小学生から大学生まで、ちょっと手のつけようがないくらいこの手の喋り方をする女の子が多いのは、嘆かわしい。

社会人になったら、少なくとも止めなくてはね。

それなのに三十をいくつか過ぎた女たちで、知的職業にたずさわっている人たちも、ズルズル言葉を無神経に使っている。そうするとその人の下着の汚れだけでなく、知的水準までも疑いたくなる。

言葉というのは不思議な力があって、それをくりかえし使うことで呪文じゅもんのような魔力を持つてしまう。

だから美しい言葉を正しく使えば、知らず知らずのうちに、優雅で美しいひとになれるものだし、反対に崩れてだらしない言葉を使い続ければ、やっぱり崩れて見ためもだらしない女になってしまうのだと思う。

出る所に出ればちゃんとやれるさ、なんて言うけど、姿形が崩れてだらしのなくなってしまう人が、いくらがんばっても、すぐにお里が知れる。言葉美人めざして、今日から努力してみて下さい。

髪というものについて

うちの娘たちがティーンエイジャーの入口にさしかかった頃、よく食卓で彼女たちの父親がこう言って娘たちを叱^しっていた。

「テーブルで髪をいじっちゃいけない」

何かというと髪のことになったし、うがえない年頃の娘たちは、口をとがらせて、

「あら、どうして？」

と訊^きいたものだ。

「レディはそんなことはしないものだからさ」と、私の夫はきっぱりと申し渡した。

食卓で髪に触^ふったりいじったりするのは、はしたないことなのである。日本以外の国では、それはテーブルマナー違反なのだ。

外国旅行をする日本娘の数がすごいらしいが、このことを覚えておいた方がいいと思う。外国人の眼には、食卓で髪をいじくりまわす女はレディにあらず、つまりとてもみっともない姿に映るのである。

そもそも人前で髪の上に触れるという行為がどういう意味をもつか、お嬢さんたちは知っているのかしら。一口に言えば、性的に媚こぼを売っている行為なのだ。

髪というのは、非常に性的なものだと思うのだ。男たちは女の長い髪にさまざまな性的妄想をかきたてられる。

レストランや、喫茶店やホテルのロビーなどで、さかんに自分の髪の上に手をやる女は、性的誇示をしているようなものだと思うたらい。ちゃんとした大人の眼から見ると（そういう大人の完成した眼をもつ人間が日本にはまだほとんどいないから、いいようなものの）、人前や、特定の男の前で長い髪をいじくりまわすのは、人前で自分の陰毛を触ってみせるのと、そう大差のない行為なのである。

だから、髪の長いことで売れているあるタレントが、テレビのコマーシャルなどで、口をぽかんとあけて、あの長い髪をさわりまくるのを見ると、人事とは言え私は顔が赤くなってくるのである。

自分の髪に触れるということは、性的アピールを臆面おくめんもなくやってのけるということ、